

# 「日野町のたたらと文化財を語る」



日野町誌ブックレット「鉄山師近藤家と都合山たたら 奥日野を支えた和鉄生産」の出版を記念し、町山村開発センターで、トークセッションが行われました。著者の角田徳幸さん（島根県埋蔵文化財調査センター）、加地至さん（元岡山県立高等学校教員）、池本美緒さん（鳥取県立公文書館）による解説や、町文化財保存活用地域計画策定に向けて、その概要や取り組み状況についての報告などが行われました。



## 『日野町誌ブックレット』販売中！

### たたら製鉄に関わる歴史を紹介

日野町のたたら製鉄に関わる歴史を紹介した日野町誌ブックレットを販売中です。

近藤家の製鉄業の歴史や、都合山たたら経営における地域社会との関わり、発掘調査でわかったことなどを詳しく記しています。ふるさとの歴史や文化に興味のある人は、ぜひお求めください。

- 体裁 A5判 124 ページ
- 価格 1冊 500円
- 取扱期間 令和7年9月14日まで
- 購入方法

町教育委員会または町公民館で、代金引換えで購入。なお、町外の人などで郵送を希望する場合は、町教育委員会にお申し込みください。

【問合せ先】町教育委員会事務局（電話 72-2107）

## ふるさとのことば

～日野弁なんずかんず～ 第88回

「すぼ」って何のじゆん？  
地域の寄り合いや慰労会など、料理を囲んでひとしきり飲んで話して、さてお開きとなりました。目の前にはまだ手付かずの料理が残っています。  
こんな時誰かが、「おい、誰ぞすぼ持ってこいや」「すぼしよいや」などと言つと、どこからともなく持ち帰りのパックが出てきて色々な料理を持ち帰る、という場面、よくありますよね？  
「すぼ」とは、納豆などをわらなどを使って包みにする容器、あの「わらすぼ」

のことです。  
正しくは「苞（つと）」「わらづと」といいます。また「つと」は、「包む」と語源を同じくするそうで、なるほど、わらで包むから「草かんむりに包む」と書くわけですね。  
これは余談ですが、なんと「ワラスボ」という名の魚もいるそうです。日本では有明海だけに棲む、日本の食用魚で、語源は、ハゼの細長い姿が、例の「わらすぼ」に似ているからだそうです。

協力：日野町歴史民俗資料館友の会

テーマは「たたら」

## 根雨宿ウォーク



11月1日、奥日野ガイド倶楽部（舟場）の案内で根雨のまちなかを歩く「根雨宿ウォーク」が行われました。参加者は役場前駐車場から出発し、たたら製鉄に深く関わりのある近藤家住宅やたたら楽校、オシドリ観察小屋などを巡り、散策を楽しみました。





しいたんのコイントレーを手渡す石倉さん(左)

## 丈夫で長持ち。革で作るしいたんグッズ

石倉恵美子さんがしいたんトレーを寄贈

10月22日、石倉恵美子さん(舟場)が、革で製作したいたんトレーをまめなか屋に寄贈しました。石倉さんは、町内でレザークラフト教室「かかあ工房」を開いており、まめなか屋や金持神社礼所でも、革製品のグッズなどを販売しています。「しいたんグッズがもっと増えてほしい」と思い製作した。手縫いで丁寧に作っているの、長く大事に使ってもらえたら」と石倉さん。新たなしいたんグッズとして、まめなか屋にてしいたんキーホルダーも販売中です。ぜひお買い求めください。



オリジナルのトリピー&しいたん缶バッジが完成

## 世界にひとつだけの缶バッジ

おはなしの出前&缶バッジづくり

10月29日、ひのっこ保育所で、おはなしの出前&缶バッジづくりが行われました。はじめに、ボランティアによるおはなし会が開催されました。園児らは、読み聞かせられた絵本に、夢中になって耳をかたむけていました。缶バッジづくりでは、あらかじめ描かれたトリピーとしいたんに自由に色を塗り、専用の用具でオリジナルの缶バッジを作成。園児らは思い思いの色を塗り、出来上がった缶バッジを胸に付け、嬉しそうな笑顔を見せていました。

## 諏訪地区竹パウダーづくり

諏訪地区の景観復活と、地域資源として竹を有効活用するため、諏訪自治会が竹パウダーづくりを行いました。

竹パウダーとは、竹を粉砕機で粉状にしたもので、この竹パウダーを発酵させた堆肥を畑などにまくと、病気に強く生育のよくなる土壌が出来上がります。10月末時点で、約1.2トンの竹パウダーが完成。来年には、同地区内のトウガラシ畑や各家庭の畑に散布される予定です。



▲地域資源として期待される竹パウダー



▼諏訪トウガラシ畑などで活用されます

### 竹堆肥づくりの先進地へ

### 庄原市視察研修



10月14日、諏訪自治会と菅福地区連合自治会の有志が、竹堆肥づくりの先進地である「協同組合庄原里山の夢ファーム」(庄原市山内町)を訪れ、竹堆肥づくりの視察と研修を行いました。参加者は、庄原市で行われている竹の活用方法や、竹堆肥を使った特産品づくりなどを見学。この日学んだ技術や知識は、今後の同地区での活動に活かされます。

